

第2回昭島市産業振興計画策定委員会

要点記録

日時：平成28年10月7日（金）
午後6時00分～8時15分

次 第

1. 開会
2. 議題
 - （1）ヒアリング調査の報告について
 - （2）昭島市の産業振興計画の方向性について
 - （3）ワークショップの開催について
3. その他
4. 閉会

配布資料

【配布資料】

- 資料1 昭島市産業振興計画策定に関するヒアリング調査結果まとめ
資料2 昭島市の産業振興計画の方向性（仮説）
資料3 昭島市産業振興計画の策定に向けたワークショップの開催について

出席者（敬称略）

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所 教授・副所長）

副委員長・・・内藤博（事業承継センター株式会社代表取締役）

委員・・・幸田義康（昭和飛行機工業株式会社地域振興推進室長）、井ヶ田博（昭島市商工会商業部会長）、水野宏一（昭島市商工会事務局長）、住元文和（信金中央金庫地域・中小企業研究所次長）、谷口昌平（地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター上席研究員・複合素材開発セクター長）、大坪美枝子（公益社団法人東京都中小企業振興公社多摩支社情報交流係長）、鈴木勇作（昭島市農業生産団体連絡協議会会長）、今安典子（東京都農業振興事務所農務課長代理）、國井俊彦（一般社団法人昭島観光まちづくり協会事務局長）、小山美智代（公募市民）、高橋早苗（公募市民）、桑名美恵（公募市民）、長瀬雄一郎（昭島市商工会工業部会長代理）

事務局・・・永澤（市民部長）、青木（市民部産業活性課長）、東山（市民部産業活性課産業振興係長）、増田（市民部産業活性課・都市農業担当係長）、板谷（市民部産業活性課）、北原（市民部産業活性課）

嵯峨（多摩信用金庫価値創造事業部）、澤田（多摩信用金庫価値創造事業部）

欠席・・・長瀬透（昭島市商工会工業部会長）、鈴木一昭（昭島市商工会建設業部会長）

1. 開会

事務局・・・挨拶、資料確認

2. 議題

事務局・・・これより第2回昭島市産業振興計画策定委員会を開催する。

委員長・・・本日は第2回目ということで、計画の中身の話をし、基本理念、基本戦略の合意をとりたい。この計画の根幹を決めていくことで各産業の事業、アイデアが、議論可能となる。またワークショップを行い、そのアイデアを取り入れて計画策定につなげていく。

その際の地図になるのが今回策定する計画の基本骨子となる資料2である。市が民間の産業振興を応援することにどのような意味があるのかを定めるのが基本理念。基本戦略は基本理念を基にした各産業への共通の取組、方向性。基本目標は、それぞれの業界の中長期的目標、産業振興することで各産業をどうしていくのかの内容、また個別の施策が含まれる。最終的な計画にはこれらすべてが網羅される。

この一か月くらいかけて市内の事業者にはヒアリングをしてきた。本日は議題（1）その結果とそこから生まれたアイデアを委員のみなさまにお伝えす

る。課題は多々あるが、今後の大きな方向性にヒントを与える可能性についても検討したい。

事務局・・・ヒアリングについて報告する。資料1に基づき説明。

中小企業・中核企業7社と農家7先、商工会の部会長、観光協会にもヒアリングした。

商業については、過去3か年の中で商店街等を訪問し得た声と今後のヒアリング内容を生かしていく。全体的に高齢化が進んでおり、来店客数が減少。空き店舗が多くあり、日中の人の回遊が減少している。個店にとっては量販店の影響も大きい、市全体でみれば外部から人を呼んでくる力のある昭和の森の存在は大きい。商店街自体も独自の取組をしているところがある。

中核企業については、CSR、従業員の居住地、仕入れ先等について聞いている。課題の一つとしては雇用が挙げられる。人材確保、人材育成も重要で行政としての支援がポイントとなってくる。課題の二つめは企業同士の繋がり。中核企業は市内の企業同士の繋がりが乏しいようだ。また、住工混在問題も存在する。

前向きな言葉としては、「昭島に根をおろしていく、工場見学等で地域とかかわっていく」という意思を示した事業者もある。また環境が整っていけば、地域に貢献したいとの意思表示もある。

農業は、後継者問題の課題があり、いつ事業承継をしていくべきか悩んでいる。大規模経営をするには人手が足りない、外部へのPRが難しい。小学校への地場野菜等の供給は現状なかなかできていないが積極的に行う意思はある。拝島ねぎや桜は新たな地域資源として認識されつつある。農ウオークに対する関心は高い。

観光は、来街者が減少しており、産業観光の受け入れ先の新規開発は課題である。今後は産業間連携を強化していきたいとの意向がある。またフィルムコミッションにおける他地域との交流、それによる人の呼び込みにも力をいれていきたい。観光の分野だけではなくシティプロモーションやまちづくりにもっと事業をつなげていきたい。まち歩きにおいては他市との連携による実績があるため、観光を切り口に他地域との連携もありえるのではないかと

委員長・・・ヒアリング内容の報告があったが、質問・補足があればしていただきたい。

工業は、昭島市は中小企業と中核企業の製造業・建設業の両方に着目すべきということになっている。

永澤部長・・・補足だが、中核企業においては市内中小企業との接点が少ないという意見をもらっている。実際市内ではどのような交流があるのか提示してほしい。

- 長瀬委員・・・ 昭島青年経営者クラブという団体が存在し活動が行われているため、交流や接点がほとんどないという感覚はあまり持っていない。自ら社外にでて交流する意識がないと事業には結びついていかない。チャンスがないわけではない。
- 事務局・・・ 「企業同士の受発注のやりとりが少ない」といった意図で「交流がない」とヒアリングで聞いているが、人的なやりとりがまったくないということではないようだ。
- 長瀬委員・・・ 発注先の質がよくないと仕事には結びつかない。昭島市は互いが切磋琢磨する環境、専門家のアドバイスを受けられる先として産業技術センター多摩テクノプラザもある。企業にとって、環境は恵まれているといえるのではないか。
- 委員長・・・ 既存の繋がりにおける受発注の関係はかなりあるのではないか。逆に他分野、新分野との繋がりが、今は薄いのではないか。
- 桑名委員・・・ 自分が小さいころは、市内の企業に社会科見学等で行ったが、自分の子どもは行ってないように思う。子どもたちは機会がないと市内にどのような企業があるのか知るチャンスがない。
- 委員長・・・ 工場見学の依頼はあっても、やはり安全面の確保やトイレ等設備がないと社会科見学自体も受け入れが厳しいと聞く。
- 小山委員・・・ 自宅のすぐそばに小さな工場はあるが、何をしているのか、何を作っているのか知らない。音がするので工場なのだとわかる程度で、普通の暮らしの中ではわからない。騒音、異臭はあまり感じない。
- 委員長・・・ 騒音対策等は古い企業であればあるほど努力をされている。最近はあまり騒音のクレームをきくことはないので、そのような点は解消されてきている感がある。
- 水野委員・・・ 社会科見학을希望している企業はあるが、企業側からは、どのように学校へアプローチしていいかわからないという意見もある。行政や商工会がサポートしていくべき。
- 谷口委員・・・ 大田区在住だが、大田区では子どもの社会科見学を区内で行う。ボブスレー等企業同士の繋がりや技術アピールの場がある。見せることで人を呼ぶことが可能である。また区内に産業振興協会があり、産業関係の中心となっている。産業振興専門の組織がしっかりあるということは強み。
- また日野市ではカワセミロボットを市が中心となって市内事業者 10 社くらいを集め、技術や部品を集めて作成した。子どもへの PR や技術の高さをアピールするものとなっている。昭島市でも可能なのではないか。
- 大坪委員・・・ 大田区勤務のとき、大田区では区内中小企業のお墨付きや、表彰、展示会、技術者 PR などの情報発信、ターゲットを絞って海外から人を呼ぶ取組

などをかなり積極的に行っていた印象がある。

ヒアリング結果についてだが、それぞれのニーズに基づいて予算をたて実施するのは難しいと思う。商工会、振興公社で事業として既に実施しているものについては、市がコーディネータの役割を担って、点を結び面となる取組をしたらどうか。

委員長・・・すべてを行うことは難しく、絞った形で計画に反映していく予定。どの分野にも共通するところで「人」というキーワードがある。

内藤委員・・・市役所がやるべきことはカタログ作りだと思う。例えば、練馬区では市民を公募で集め樹木台帳を作った。今ある地域の財産をカタログで見える化し、役所からポータルサイトで発信する。樹木のいい写真が撮れるタイミングなどは市民がよく知っている。またそのような活動を通じて地域を愛してくれる「人」を育てていくことが可能。自分の手で地域を豊かにしようという目的で、お金をかけずに行っている事業といえる。

実際に行っていくためには、工場をオープンにして、市民に見せていくことも必要。市役所から義務として見せてほしいとお願いしていくことがあってもいい。見せることができる設備を整えるための助成をしたとしても、充分労力に見合う。

設備不足の点においては、例えば八王子市はトイレカーを作って、トイレが足りない企業の見学時には貸出できるようにしている。自分たちの予算だけで行うのではなく、横展開もしていくべき。

委員長・・・この計画で「見せていく」がキーになれば、そこから施策ができていく。

次は商業について意見をもらいたい。

幸田委員・・・高齢化に伴い働く人が集まらないことは感じている。またなぜか昭島にはラーメン屋が多い印象。

井ヶ田委員・・・一時、江戸街道はラーメン街道になりかけた。しかし、ばたばたと閉店してしまった。体を壊して地元に戻るという事例もあり、営業の内容だけではないと感じる。

中神駅南口は開発が遅れているが、新しいきれいな店ができて始めている地域でもある。既存の店舗が古いから、新出店しやすいということもあるのかもしれない。

高橋委員・・・友人の会社で事業承継に悩みつつも努力し、小学校で和菓子の体験事業をしている会社がある。子どものファンができて、親を連れて来店するといういい循環がうまれており、親や子供の発信力は大事だと思う。

SNS の力、口コミは広がりがある。一時期、位置情報システムを活用したスマホゲームの影響で東中神駅のまわりが渋滞するほど賑わった。産業においても SNS と連動したアピールができるといい。

井ヶ田委員・・・ 商店街に来てくださるお客を対象に昭島街道寄席を7年間続けている。主催者は商店街、サポートは商工会の商業部で、定着してきている事業。40名～100名集まる定期的な寄席となり、チケットがなくなる回もある。継続的な取組により、地元のお客と商店街が交流できる事例だと思う。ただ、それだけでは発展につながっていかないので、寄席の時に出す限定の和菓子やうどんをつくってもらい1000食/年ほどでている。

課題としては、既存の地域のお客を囲いこむので精いっぱい、新たな層に声かけしきれていない点。産業まつりの2日目には街道寄席をイベント会場で行い、普段の取組をPRしている。

委員長・・・ 昭和飛行機工業は大手というより中核企業のイメージをもって事業をしているとヒアリングで聞いたが、昭島市に対してどのような思いをもっているか。

幸田委員・・・ 今から3代前の社長が、地域に還元することやCSRに力を入れ始め、モリタウンに来てくれるお客さま、地域の方に還元する方針ができあがった。今でも、母の日や父の日、音楽祭等、さまざまな取組を行っている。

小学校3年生から昭島のことを学びはじめるので全13小学校から未来の昭島の絵をかいてもらったりしている。

委員長・・・ 大規模商業施設ではあるが、かなりの地域密着化をしている印象。同じような思いで事業をしているという面で商店街とも繋がれることがあるかもしれない。

幸田委員・・・ モリタウンは個店が入っている大規模商業施設。店舗自体に人気があれば自主的に撤退するため、空き店舗がでることもある。モリタウンとしても、営業努力をしている。

委員長・・・ 農業についてはどうか。

今安委員・・・ 農業における後継者問題は都内全体の問題。2015年農林業センサスで、都内農業者の平均年齢は、63.9歳。自給的農家は半分ほど。若い農業者を育てていくことが行政の目標だと思っている。「農ウォーク」についてヒアリング報告があったが、農家と市民がいかに交流しながらやっていくかということが大切。また、食品加工業者が農家と繋がりたいという意思があるのはいい。清瀬市が6次化のいい取組を行っている。

内藤委員・・・ 多摩信用金庫が20～30代の方を集め、経営も含めての農業後継者を育てる勉強会をしている。今の若い人は現金収入がないと農業に取り組まない。やはり、サービス付加価値をつけていくことが農業においても重要。

例えばレストラン、ガーデニング等のノウハウを教える「教習」は教えるだけで収益となる。具体的には主婦が食卓を豊かにするために子どもとガーデニングができたらと思って、買い物に行ってもホームセンターで調達して

しまうと、すべてホームセンターの収益になってしまう。しかし、地域の農家ならどうだろうか。地元の農家に還元でき交流も生まれる。そのような手法を学んでいる。市役所の一角に時期や種類がわかり、且つ農家とも交流ができる一角があってもいい。

井ヶ田委員・・・ 来年度、商店街では「まちゼミ」を行う予定。商店街の空き店舗において、農家の方にもぜひ加わってもらいたい。

鈴木委員・・・ 拝島ねぎの保存会を 7 名ほどで結成した。今年の 3 月に東京みどり農協に協力いただき、ねぎ味噌（25kg、1600 瓶）を作って拝島ねぎの第 6 次産業化に取り組んだ。産業まつりや直売所等で販売し、拝島ねぎを PR していく予定。

委員長・・・ 製造業や工業は農家との繋がりがあるのか？

長瀬委員・・・ 飲食関係の機械を作っている企業は農家と繋がるのが可能かもしれない。

第 6 次産業化を専門に事業を行っている会社もある。また岩泉町は第 1 次～第 6 次産業まで第三セクターが担い、ヨーグルトやジャム等を開発し販売している。最終的には民間に譲り渡すべきだと思うが、市などが主導でそのようなことをしてみるのもいいかと思う。

委員長・・・ 農家と企業との繋がり、作ろうと思えば作れるのかもしれないが、観光もキーになるのではないかな。

國井委員・・・ 「全産業が利用できる、提供しあう場所」と「ある場所にいけば全産業がリンクできる場」があることが有効になってくるのではないかな。それを行政や観光の切り口でやってみるのもいいと思う。

昭島の各事業所が持っている技術を寄せ集めた昭島モデルをつくり、象徴的なものを作るのも手。市場のような技術や強みを出し合う場面があれば、それを作り上げること、商品化、ブランドができるような気もする。

商業も食べ物と小売りを分けて考えるべき。昭島市で行っている昭島ブランド・フードグランプリが存在するが、同じ商品を同じ暖簾でつくり、参加する場を設ければ広がっていくのではないかな。観光部門でブランドに関する MAP を作ってもいい。地域を代表する旗印を作っていくことが、産業振興計画の演出部分になるのではないかな。

かなり大きな話になるが、回遊のシステム、インフラ整備、共通の決済設備等あればデータの蓄積も望める。

農業で昭島に不足なものは何かと考えた時、一時的な効果ではあるかもしれないが、若者への傾倒一辺倒ではなく高齢者を農業に振り向けていくのもいいのではないかな。内藤先生がおっしゃった現金収入は大切。あきる野市（秋川ファーマーズセンター）、立川市（ファーマーズセンターみの一れ立川）

に直売所もある。集客も含め、農家への相互作用は大きい。道の駅のようなハードが必要になるので、行政がしていくのはどうか。昭島が都内第2の道の駅をつくるのもいいと思う。

委員長・・・ 市民委員の感想を聞きたい。

桑名委員・・・ 道の駅などにはありがたい。坂下の住民にとっては、高齢者は無料のパーキング等が必要。商店街にも無料駐車場があれば、購買のきっかけになると思う。また、ずっと昭島に住んでいるが拝島ねぎを知らなかった。

高橋委員・・・ 長崎県に若者に補助を出して移住してもらい多岐にわたる業種が空き店舗に出店している地域がある。昭島がどのような部分に力をいれているかをPRしていけば、力のある人たちを呼び込める可能性がある。世代交代もありえると思う。

小山委員・・・ 拝島ねぎを初めとして地域の野菜を買える場所がなく、存在を知らないひとも多い。例えば、福生ドッグは食べたことはないが存在は知っている。フードグランプリも全体的に商品がバラバラなので、インパクトにかける部分がある。ブランド化につながっているイメージが薄い。

住元委員・・・ 大田区は中小企業のまちで、共同受注の仕組みがあったと思う。昭島の中で、ものづくりを簡潔させるようなネットワークや仕組みづくりができないか。

元気プロジェクトの報告書を読むと、事業承継が中心となっている。事業者を新たに増やしていく、第6次産業を事業として行う人たちを支援していく仕組みがあっていいのではないかな。

委員長・・・ 今までの意見をふまえた方向性を、資料2を見ながら考えたい。ヒアリング等から受けた共通事項を基に、基本理念等を考えてみた。

一つは昭島のブランディング。市民に対するブランディング、外へのブランディングに産業振興計画が寄与しないといけない。

もう一つは、きちんと世代交代できていくまち。つまり持続可能ということで、新しい人が新しいことをできるまちが大切。

この2点を大きな目的にしたいと思う。象徴的なキーワードで「〇〇な暮らしを支える…」と表現できたらいいと思う。

では、すべての分野において共通する方向性はどうか。3つ挙げてみた。

①連携：産業間連携として第1次～第6次、サービス業の連携。広域連携。異分野連携が大切。昭島は商圏が狭く、西多摩から昭島に来ているひとの方が多いことがわかってきた。昭島市内だけで連携するのではなく、西多摩方面に広げて、観光やその他の分野を考えていくのはどうか。

②世代交代：事業承継や創業支援で持続可能なまちをつくることも大切。ヒアリングにおいては、土地に対する農家の方の愛着を知った。農業がビジネ

スとして成り立つことも重要だと考える。

③生活者志向：産業は供給者目線で事業を行ってもうまくいかないことが多く、市民目線のビジネスも大切。例えば商業の場合、進む高齢化に対応した商品、サービスが必要。

市民参加についても、例えば工業において身近にある工場等がどんな事業所であるのか等をお互い知り合えば身近なものになっていく。相手を知らないことは恐れや不信につながるため、市民が参加する、見聞きする機会を増やしていくことが大切。

ヒアリングや委員会時のお話をまとめるとこのように方向付けができていくのではないかと。今日の議論に出てきた「ブランドをつくる・場を設ける」という内容を追加していてもいい。

長瀬委員・・・一つの案として提案する。昭島には西川製糸（中神駅の南口から多摩川沿いまで工場が続いていたくらい大規模）という企業があった。多摩の産業を支えたという実績がある。そういったものを活用してはどうか。

産業と農業と観光を結んだ提案となる。人材不足、事業承継が問題となっているが、企業同士の連携の場、起業家へのサポート、農業体験、地元を知るような交流の場、且つ文化、福利厚生を有している施設があればいいのではないかと。

委員長・・・今いただいた意見は、産業振興計画の中では、各施策の具体的な方向性にあたる。この具体的施策は何に基づいて行うかというところを、今日は議論したい。方向性さえ決まってしまうと、今度のワークショップ等で具体的な意見もでてくると思う。本日は、基本理念についてのコメントを皆さんからいただきたいがどうだろうか。

國井委員・・・長瀬委員の発言された具体的なステートメントは面白いので、ワークショップ等で聞きたい。

共通のキーワードは、連携ではないか。「スクラムを組む」、「本気でやる」というイメージをもったので、きれいな言葉を並べるより、泥臭い言葉を並べ、本気度が伝わるフレーズはどうか。

水野委員・・・産業面はいかに具体的な住んでみたい街づくりを実現していくかが大きいと思う。人口減少高齢化、昭島からの製造業の流出を食い止める施策が入るといいと思っているが、どのように理念・戦略に入れていけるかがポイントになると思う。雇用、人材育成は大きな課題である。

ものづくり企業への人材面の支援ということで、商工会ではものづくり企業への人材支援事業を開始した。

公共の施設に関しては、市の公共施設検討委員会では現在スクラップアンドビルドを検討しているところ。先ほどの意見に施設の話があったが、よく

検討していかないといけない。

鈴木委員・・・ 昔、養蚕をしていたことがあるが、桑畑がないと難しく養蚕の作業も容易ではない。産業間連携は必要だが、生糸という面から行うのはどうかと思う。

井ヶ田委員・・・ 観光協会が設立されたのは、昭島の観光に関して本気で考えようという意見があったから。いつも連携という言葉だけが挙がり、実際に引っ張っていく組織がない。それぞれの団体がバラバラに事業を起こし、実際はうまくいってないという実態がある。

一つのキーワードとして「昭島ブランド」という何かを商品化して事業していくという目標があれば、もう少し繋がるのが可能な気がする。

委員長・・・ 具体的に何をするか、誰がやるのかということはとても大事。行政がやるのか、民間がやるのか、市民がやるのか…。すぐ行すべき状況なのか、長期的な視点が大事なのか。すでにやっている部分を計画の中に位置づけると事業が正当化され市民にも伝わっていく。それをうまく使っていこうという企業がでてくるかもしれない。場や組織、会議体がこれから必要になってくる可能性はある。

幸田委員・・・ 基本理念に関しては、10年後20年後同じ店があって欲しい。継続的な暮らしを支えるということを大切にしてほしい。

市民委員・・・ 青年会議所などの組織があると聞いているが、そのような組織内で具体的な取組の話などはでていないのか。

井ヶ田委員・・・ 市内にある3団体（45歳くらいまでの若手事業者で構成）が、話し合いを重ねているが、行政に主導権をとってもらわないと難しい部分が多い。

大坪委員・・・ 産業サポートスクエアTAMAで、10月22日にウエルカムデーが開催される。昭島市の食品を出してもらうことになった。この策定委員会の「昭島市商工会事務局長」である水野委員にお願いして話を進めていただいた。

計画については、短期的にすぐできるもの、中長期的なものなど様々であるが、この委員会に係る方が連携して、できることから取り組みたら良いと思う。

委員長・・・ 机上の空論にならないよう、皆さまと具体的な話をしっかり進めていきたい。具体的には次にお知らせするワークショップで話しあえればと思っている。

事務局・・・ ワークショップについては資料3をみてもらいたい。10月24日に行う予定であり、異業種、産業間連携をテーマに考えていく場としたい。このワークショップがプラットフォームのきっかけになったらいいと思う。

市民からも昭島について、市民目線の切り口から意見をいただきたい。以

上、ご理解の上、ご協力をお願いしたい。

委員長・・・ ワークショップでは具体的に何をしたいかの意見をいただき、それも含め第3回委員会の時には計画案を披露する。このような積極的な意見をくださる皆様なので、ぜひ出席してもらいたい。

4. その他

事務局・・・ 第3回目会議 11月18日（金）18時～20時で行う。出席をお願いしたい。

永澤部長・・・ 資料を早めに欲しいという意見ももらっているが、遅くなってしまう申し訳ない。また計画についても責任をもって今後に生かしていく、また何年たってもそのままということではなく、随時変えるべきところは変えていく。

5. 閉会

委員長・・・ 本日の内容について、また追加の意見等あれば事務局へいただきたい。